

11:00-11:10 開会式

11:10-12:00 基調講演

サイモン・ケイナー

(英・セインズベリー日本藝術研究所統括役所長 兼 考古・文化遺産学センター長)

13:30-17:00 パネルディスカッション

コーディネーター

河合正朝

(千葉市美術館館長)

パネリスト

小林達雄

(考古学者・國學院大学名誉教授)

サイモン・ケイナー

(英・セインズベリー日本藝術研究所統括役所長 兼 考古・文化遺産学センター長)

羽生淳子

(米・カリフォルニア大学バークレー校教授)

山下裕二

(美術史家・明治学院大学教授)

熊谷俊人

(千葉市長)

戸村正己

(千葉市埋蔵文化財調査センター  
縄文土器製作技術研究員)

— 縄文の造形と現代美術 —

# 縄文の美

加曽利貝塚

特別史跡指定記念シンポジウム

2018年6月3日(日)

11:00-17:00 (開場10:30)

入場無料 先着150名

千葉市美術館 1階さや堂ホール

主催 千葉市教育委員会 千葉市美術館(千葉市教育振興財団)

協賛 セインズベリー日本藝術研究所

※参加人数が定員を超えた場合、11階講堂にて会場の映像を中継いたします。



2017年10月、加曽利貝塚は国特別史跡に指定されました。これを記念して縄文時代の造形美について、国内外の研究者による発表とパネルディスカッションを開催します。

縄文時代を「いま」に繋ぐ。この企画が、わたしたちのごく身近にある国指定の縄文遺跡を、わたしたちが日常の中で活用し、その保存の重要性を実感する機会になるとともに、こうした歴史のある土地、豊かな文化の継承される街に住むことが、千葉市民にとっての誇りとして意識される一つの契機になればと、願っています。

## 【シンポジウム】

### 基調講演

- 11:00 開会の挨拶 千葉市教育長  
千葉市美術館館長
- 11:10~12:00 基調講演「ヨーロッパの視点から見た縄文アート」  
講師 サイモン・ケイナー

### パネルディスカッション

- 13:30~15:30 パネリストによる発表  
15:30~15:50 休憩  
15:50~17:00 パネルディスカッション

※会場のさや堂ホールは定員150名です。  
参加人数が150人を超えた場合は、11階講堂にて会場の中継をご覧ください。

## 【関連展示】

千葉市美術館 1階さや堂ホール内にて関連展示を行います。

戸村正己氏製作の縄文土器展示  
市内出土土偶  
特別史跡加曽利貝塚パネル展示

## 【千葉市美術館の展覧会】

# 岡本神草の時代展

The Age of Okamoto Shinso

会期 2018年5月30日(水)→7月8日(日)  
開館時間 10:00~18:00(金・土曜日は20:00まで)  
※入場受付は閉館の30分前まで  
休館日 6月4日(月)、18日(月)、7月2日(月)

## 【登壇者紹介】

### 小林達雄(こばやし・たつお)

考古学者/國學院大學名誉教授。文化庁文化財調査官などを経て1985年、國學院大學教授。縄文人の世界観から土器文様を読み解くなど従来にない視点から問題提起を続ける縄文研究の第一人者。新潟県立歴史博物館名誉館長。著書に『日本原始美術大系 1 縄文土器』『縄文文化の研究』全10巻(編著)『縄文土器大観』全4巻(編著)『縄文土器の研究』『縄文人の世界』などがある。

### サイモン・ケイナー

考古学者。ケンブリッジ大学修士、2004年ケンブリッジ大学博士号を取得。セインズベリー日本藝術研究所の統括役所長兼考古・文化遺産学センター長を務めると同時に、イーストアングリア大学日本学センター長。専門分野は日本の先史時代・考古学史、日本の歴史的都市環境の比較研究。日本の文化遺産及び考古遺産管理の国際的役割を果たしている。著書に大英博物館で開催された画期的な土偶展の図録「The Power of Dogu: ceramic figures from ancient Japan (土偶の力: 古代日本の陶像)」(2009年)がある。

### 羽生淳子(はぶ・じゅんこ)

環境考古学/生態人類学。慶應義塾大学文学部史学科民族学考古学専攻卒業。同大学院文学研究科史学専攻修士課程修了。マッギル大学人類学博士課程修了(博士号取得)。東京大学理学部助手、マッギル大学人類学講師、カリフォルニア大学パークレー校人類学助教授、准教授を経て2010年より同校人類学助教授。総合地球環境学研究所客員教授。環境考古学と生態人類学の立場から、地域と地球環境問題の解決に役立つ国際発信に携わる。

### 山下裕二(やました・ゆうじ)

美術史家。東京大学大学院修了。明治学院大学文学部芸術学科教授。室町時代の水墨画の研究を起点に、縄文から現代美術まで、日本美術史全般にわたる幅広い研究を手がける。著書に『室町絵画の残像』『岡本太郎宣言』『日本美術の二〇世紀』『狩野一信・五百羅漢図』『日本美術全集 20 日本美術の現在・未来』など、企画監修した展覧会に『ZENGA展』『雪村展』『五百羅漢展』『白隠展』などがある。

### 戸村正己(とむら・まさみ)

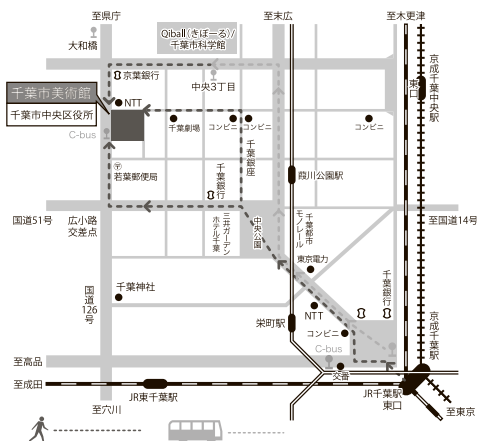
千葉市埋蔵文化財調査センター縄文土器製作技術研究員。高校生の時、加曽利貝塚博物館で土器製作の研究を行っていた新井司郎氏と出会い、教えを得る。その後、独学で土器製作に取り組み、個展を開くとともに、「縄文土器をつくる会」や「フィールド考古・足あと同人」などを主宰。福島県立博物館ほかから出土品の復元依頼を受ける。近年は、八街市のアトリエ「縄文の丘」にて企画展などを行っている。

### 熊谷俊人(くまがい・としひと)

千葉市長。2001年早稲田大学政治経済学部卒業、NTTコミュニケーションズ株式会社入社。2007年5月から2年間、千葉市議会議員を務め、2009年6月、千葉市長選挙に立候補し当選。当時全国最年少市長(31歳)、政令指定都市では歴代最年少市長となる。現在3期目。

### 河合正朝(かわい・まさとも)

千葉市美術館館長/美術史家/慶應義塾大学名誉教授。専門は室町から江戸時代の絵画。特に海北友松など、近世の水墨画を中心に研究。著書に『日本美術絵画全集11友松/等顔』『花鳥画の世界2水墨の花と鳥』『日本水墨名品図譜第三巻雪舟と友松』などがある。



## 【交通案内】

- JR千葉駅東口より  
徒歩約15分 / 京成バス(バスのりば7)より大学病院行または南矢作行にて「中央3丁目」または「大和橋」下車徒歩約3分 / C-bus(バスのりば16)にて「中央区役所・千葉市美術館前」下車 / 千葉都市モノレール県庁前方面行「葭川公園駅」下車徒歩5分
- 京成千葉中央駅東口より 徒歩約10分
- 東京方面より車では  
京葉道路・東関東自動車道で宮野木ジャンクションから木更津方面へ、貝塚IC下車、国道51号を千葉市街方面へ約3km、広小路交差点近く  
※千葉市中央区役所と同じ建物です  
※地下に、区役所と共用の機械式駐車場がありますが、混雑時にご不便をおかけすることもありますので、公共交通機関での来館をお願いします。

## 【お問い合わせ】

千葉市教育委員会事務局  
生涯学習部 文化財課  
043-245-5960

千葉市美術館  
043-221-2311

